

ときめき 鹿島

Beating Kashima

2016.1
新春
54号

ポラリス



ポラリス(北極星)を目指すには北極星を見分けること。目指すところ(方向)は一様でもやり方はそれぞれ多種多様。一人一人の思いをエッセイの形で伝えたい。

清水院長のポラリス

院長 清水 保孝

2016年、新春を迎え、お慶びを申し上げます。

近年長寿高齢化の進展に伴って、医療、年金制度、そして高齢者の生活が大きく変化してきています。慢性期病院に求められる機能も多様化してきて、それぞれの病院や施設での診療の守備範囲が異なる時代になってきました。

鹿島病院もこの10年来介護から医療へ大きく転換してきました。さらにこの数年、亞急性期の患者さんが増加してきて、医療、看護、介護で、よくして在宅に帰す機能を強く求められる時代となり、医療の質が少しずつ変化してきています。

当院が地域のニードに答えて、地域の他施設との連携を保ちながら、医療を展開していくことが、どの職種においてもそれぞれ必要と思われます。

本年もさらに亞急性期を含め慢性期の患者さんを受け入れながら、地域包括ケア病棟開設に向けて、準備していきたいと思っております。当院のさらなる発展のために、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



2016 申年の職員に今年の抱負に



在宅サービス部
青山 善一



今年は年男で4月には36歳になります。私は生まれも育ちも鹿島町です。そして職場もこの鹿島病院です。今年は私を育ててくれたこの地元の為にも地域活動に積極的に参加して盛り上げていこうと思います。高齢化が進み若い人は地元を離れて空き家が目立つようになりました。私は職業柄高齢者の方と話す機会が多いので、その特性を活かして地元鹿島町の為にも頑張っていきたいと思います。近い所では地元の正月の行事に参加して笑顔で楽しい1年が迎えられるように賑やかにスタートを切れるようにしたいと思います。



リハ部
石橋 莉加子



新年明けましておめでとうございます。鹿島病院に入職し早いもので2年が経とうとしています。昨年は体調を崩す事が多くありました。周りの方の支えもあり無事新年を迎える事が出来ました。平成4年の申年生まれの人は、大胆な割に小心者でありまた飽きっぽく持続力に欠ける面があると言われています。調べていく中で思い当たる節がいくつがあったため、今年は持続力を養い、猿のような行動力を発揮して元気良く楽しい一年にしたいと思います。



看護部
金坂 加代子



新年明けましておめでとうございます。息子の高校合格と同じ年に介護福祉士に合格をして早3年経ちました。そして更年期がはじまり… 今年は元気と笑顔で患者様をはじめ、皆様とかわっていきたいと思います。 今年もよろしくお願ひします。



診療部
狩野 晋利



当院で働くようになり、早くも1年8ヶ月が経ちます。この度年男という事で書かせて頂きますが、何を書こうかと迷う悩んでいます。

簡単に自己紹介をします。私は今年3月で36歳になり、現在は1児の父をしています。今年6月末には2人目が産まれてくる予定になっていてとても楽しみにしています。私の趣味はバドミントンをする事です。大学卒業後も現役で大会にも出場しています。

毎週土曜日に練習していますので興味のある方!一緒に汗を流しませんか?(笑)

さて、今年の抱負という事ですが、「何事にも一生懸命取り組む」です。栄養課の皆様には大変助けて頂いており、一人の私はもっと逆に助けてあげれるような存在になる為に、日々勉強だと思いながら早く一人前になれるよう頑張りたいと感じています。今年は家庭の事でも忙しくなりますが、病気をしないように生活を送れたらなと思います。



リハ部
永瀬 隆浩



昨年の2015年は病院機能評価に携わらせてもらったり、回復期の全国研究発表大会にも参加し個人的にも目まぐるしい1年だったように思います。振り返れば、あっという間の1年で、やってきたことに対して「こうしておけば良かった」等、省みることばかりのように思います。その日その日で様々な時間を使いながら様々な事を考えたり・動いたりしても、まだ時間が足りなかったように感じています。

2016年も限られた時間の中で、様々な事に対して時間を上手く使いながら有効に過ごせていけたらと思っています。今(2015年12月)、こうやって書いている最中もどうやって上手く使っていけるか考えていますが、少しでも「有意義だった」と思える時間が増えるようにしていきたいと思います。



看護部
野津 美里



新年明けましておめでとうございます。今年で鹿島病院に入職して4年目になります。まだ未熟者で毎日教えてもらう事が多々ありますが、そろそろ指導する側になる事を心得ていきたいと思います。

そして、昔からの目標であるたくさんの人を笑顔にすることを忘れず仕事をしたいと思います。

プライベートでは、旅行をすることが好きなので、まだ行ったことのない所に行ってみようと思います。

今年もよろしくお願ひします。

ついて聞きました。

リハ部
原 佳奈子

(50音順)

今年は年女という事で、私の好きな「ひとつのことば」という詩の紹介と共に抱負についてお話ししたいと思います。それではいきます！

「ひとつのことば」

ひとつのことばでけんかして ひとつのことばで仲直り
ひとつのことばで頭が下がり ひとつのことばで心が痛む
ひとつのことばで楽しく笑い ひとつのことばで泣かされる

ひとつのことばはそれぞれに ひとつの心を持っている
きれいなことばはきれいな心 優しいことばは優しい心
ひとつのことばを大切に ひとつのことばを美しく

自分の言葉ひとつで相手を嬉しい気持ちにさせたり、
反対に傷つけてしまうという事があると思います。患者様をはじめいろいろな方と関わらせて頂く中で、この詩の様に言葉一つを大切にし、来年度も一年いろいろな事を学び成長できる様に頑張りたいです。



診療部

樋野 早紀子



私の今年の抱負は、趣味を楽しむことです。もともと食べることが好きだったのですが、最近料理を作ることが一層好きになったように思います。今年はもっと料理のレパートリーを増やしていきたいと思います。

また、料理以外にも新しい趣味を見つけたいです。私が今考えているのは読書なのですが、いつも同じ作家さんの作品ばかり手にとってしまうので、今年は普段読まない作家さんに挑戦してみようと思います。おすすめの作品がありましたら、ぜひ教えてください。



リハ部

堀江 貴文



私は昭和55年生まれで、干支占いでは二黒土星の申年生まれといわれるそうです。占いによると二黒土星の申年生まれの性格は「世渡り上手、器用、アイデアが豊か、愛嬌がある」といわれる一方で、「軽率で飽きっぽい、いい加減、ルーズ、金銭トラブルを引き起こす、騙されて取られたり、借りたお金を返し忘れたり、等々…」といわれている様です。確かに、去年を思い返せばダイエットのつもりで始めた筋トレやジョギングも寒くなつてからはしなくなり、数年前に親から借りた車の代金もいつの間にか返さなくななり…。占いは後半の方が当てはまっている様です。これまでの反省も兼ねて、今年は「一度始めた事は最後までやり遂げる」を抱負に、明るく充実した一年にしていきたいと思います。

看護部
南 裕子

新年明けましておめでとうございます。

介護福祉士として入職し、15年目を迎えた。振り返ってみるとあっという間に時間が経ったように思います。

今年も仕事とプライベートのメリハリをつけ、楽しく1年を過ごしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

皆さんにとってステキな1年となりますように♡

リハ部
山成 幸子

2015年を振り返ると、育児休暇明けで久しぶりの仕事に慌ただしく毎日を過ごしていたように思います。帰宅後もそうですが、特に朝はめまぐるしく、慌ただしい気持ちのまま職場へ向かっていました。

2016年は年女でもありますし、気持ちを新たに、旦那や子供に起こされることなく『早起き』を心掛けたいと思います！そして、仕事に、家事に、ゆっくりゆったりした気持ちで取り組みたいと思います。

看護部
山根 千文

私は、昨年11月から4階病棟で勤務させてもらっています。

鹿島病院には看護学生の時にも学校に通いながら働かせてもらっていました。

約2年半程子育てのため看護職から離れていたので、忘れていることがあったり、処置等に時間がかかることがあります。医療依存度の高い患者様が多いため、看護師としての知識を深めて技術の向上に努めていきたいと思います。

リハ部
若槻 知穂

あけましておめでとうございます。年女ですね…月日が経つのが早く年を忘れてしまいますが、鹿島病院で働き始めて2度目の年女を迎えました。同じ干支の後輩ができました。

仕事では経験を重ねることに視野は広がっていきますが、これでよかったのかという反省や悩みは尽きません。今年も向上心を持ちコツコツと努力を積み重ねていきたいと思います。そして仕事を充実させるためにもオンオフをうまく切り替えてプライベートの充実を図り、元気に楽しい一年にしたいと思います。

2016年も皆さまよろしくお願いします。

鹿島病院臨床研修を終えて

松江市立病院 研修医2年目
岩佐憲一

10月の1ヶ月間という短い期間ではありましたが慢性期医療とはどんなものを患者様や職員の皆様から教わることができ、大変貴重な研修となりました。普段急性期病院で研修している身としては、1日の中のリハビリ時間の多さや、食形態upの早さにはとても驚きました。急性期病院と違い長期の入院となる患者様が多いため、短い研修の中で患者様の変化を実感するのは難しいかなと思っていたが、大きな間違いでした(笑)。また、実際の医療行為も研修させていただきました。慣れないことも多く不手際があったと思いますが、事務の方々や病棟チームの方々など職員の皆様からとにかく厚く寛容に接していただいていることを身にしみて感じました。10月は山陰には珍しく天気の良い日が続き、秋晴れの鹿島で往診に同行させていただけたことも、とても楽しかったです。今は再び業務に追われ、鹿島での日々に比べると少しブルーな気分になることもありますが、鹿島病院で得られた経験を患者様に還元出来ていけたらいいなと思いながら日々の診療を行っております。大変貴重な経験をさせていただき、本当に有難うございました。今後とも機会がありましたらよろしくお願い致します。



まつえ健康21 健康講座 開催

平成27年12月3日鹿島町文化ホール研修室にて、「まつえ健康21 健康講座」が開催されました。

松江市鹿島支所市民生活課主催で当院の坂之上一史副院長が講師として講演されました。

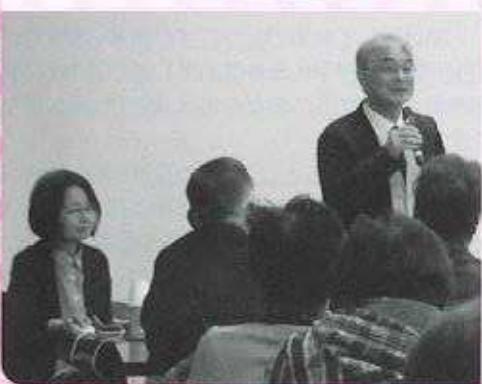
地域住民、民生委員など62名の方々が参加されました。

テーマは、「消化器疾患～お腹が痛くなる病気を中心に～」で消化器疾患の身近な病気から珍しい病気について話をされました。



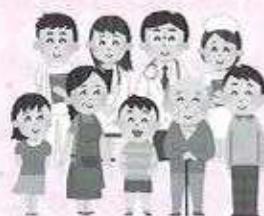
ご参加
いただいた方々より、
感想をいただきました

- 「年齢を重ねると身体の不安を感じることが多くなりますが、分かりやすく、詳しく知れたので良かったです。」
- 「病気のことと解らないこと、不安に思ったら気軽に鹿島病院に受診してみようという気持ちになりました。」
- 「定期検診、早期発見、早期治療の大切さを感じたので、検診を受けに行くことにします。」



その他にもたくさんのご意見・ご感想が寄せられました。

地域へ出向く講演会を通して、定期検診の重要性や、病気の知識について皆さんに知っていただける良い機会となりました!



地域連携室便り 46

医療相談部

小林 裕恵



「倫理委員会研修会について」

昨年12月3日鹿島病院で倫理研修会を行いました。

島根大学 法文学部 山崎 亮先生に講師として来ていただきました。

今回の研修のテーマは「脳死の語られ方」でした。



最初に先生が、「脳死とはどのような状態か? 脳死は人間の死とみなしてよいのか? その理由を考えてみてください。」と問われました。私は、死は「意識がなく、呼吸が止まって、心臓が止まって、冷たくなり、動かなくなること」と漠然と思っていたが、いざ質問されると、医療技術が発展した現代における死とは何なのだろうと考えさせられました。医療の発達によって、死を決定する要因はますます多様化しています。脳死、植物状態、救急医療、末期医療、延命治療、自然死等に関連して、従来なかった価値観に基づく医療倫理が求められる時代になっているのです。

①医療従事者と脳死②脳死の概要③日本における脳死・臓器移植問題の経過④脳死の語られ方一人間の死とは? (医療サイドの視点、医療サイド以外の視点)⑤脳死者の家族と臓器提供待機者の現実等に関して教えていただきました。

今回の参加者は51名でした。研修会終了後のアンケートでは、参加者の皆さんから次のような感想が寄せられました。

①患者も医療職も人間であり「人」としてどうすべきかはそのケースケースで考えていくことになる

と思う。家族が納得できる時間をもつこと、出来る限りの誠意をもって対応することが必要と思った。双方の信頼関係が必要。(看護師)

②人間の死について考えるきっかけとなりました。脳死を人の死とするのかは、とてもむずかしい問題であり、特に家族、身内だとさらに難しい気がします。今後考えていきたい問題だと気づきました。(セラピスト)

③病院スタッフから見た死と、患者家族から見た死は別のものだと思うので、どんな言葉をかけようか、死と向き合う家族にどう寄り添うか考えさせられた。(介護職員)

④脳死についての研修は初めてでしたので、難しかったです。ビデオも見せていただき、残された家族の気持ちを改めて知ることができました。病棟の患者様やご家族の気持ちをさらに勉強したいと思いました。(事務職)

⑤人の死についてまた考えさせられました。日常業務に携わりながら、死に直面することも多くあります。その時、患者、家族の立場にたって、私ができる精一杯のことをして差し上げるように心がけています。自分がもし脳死と判断された場合についても家族がそのようになった時もあわてないよう話し合うことも大切だと思いました。臓器提供などについては今後の課題とします。(看護師)
先生からは「アンケートに目を通させて頂いて、私の拙い話でも少しはお役に立てたのかな、とちょっぴり安心しました。現場で死に直面しておられる職員の皆さんに対して、観念的な話しかできませんが、お役に立てる機会があれば、また声をおかけください。」とのメッセージが届きました。

「人の死とは何か、また生とは何か」ということを改めて考えることによって、学びが深まった講演会でした。



健康コーナー 豆知識



ここがつぽ

医師 佐々木 亮



・脳卒中は予防できるか？・

脳卒中による死亡は激減し、年間死者は約13万人となりました。しかし入院、受診患者さんの数はがんの1.5倍、心臓病の3.5倍です。（脳卒中ガイドライン2015）。

主要死因別死亡率(人口10万人対)の長期推移(~2011年)



(注) 1994年の心疾患の減少は、新しい死亡診断書(死体検案書)(1995年1月1日施行)における「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの事前周知の影響によるものと考えられる。

(資料) 厚生労働省「人口動態統計」

第二次世界大戦前後の日本の死亡原因の経過をみると、1951年、我が国は感染症＝結核を克服し、脳卒中が死因の第一位を占めるようになりました。すなわち、感染症から生活習慣病への移行の始まりです。1981年にはがんが死因の第一を占めるようになりました。さらに1986年、心臓疾患が死因の第二位となり、さらに2012年、死因の第三位は肺炎となり、脳卒中は死因の第四位となり、年間死者は約13万人です。このことは脳卒中は予防できるということを示しています。これは食事を中心とし、降圧剤などの治療により、高血圧が改善したことが脳出血激減の大きな要因となっています。このことは「脳卒中は予防できる」ということを示しています。

脳卒中による死亡は激減しましたが、寝たきりや認知症の原因第一位です。

また脳卒中の別の問題はしばしば再発することです。

脳梗塞、脳出血の再発率はそれぞれ、1年後

10%、25%、10年後50%、55%です。

脳卒中の患者さんの多くは高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満、慢性腎不全などの病気を合わせもっています。これらを脳卒中の危険因子と言います。

脳卒中の発症、再発予防のためには、これらの危険因子を改善することが重要です。

鹿島病院にも多くの危険因子をもった脳卒中後遺症の患者さんが、リハビリのため入院していただきます。入院中の患者さんに対して、リハビリによる運動麻痺、失語症の後遺症の改善ばかりでなく、危険因子の改善にも注意を払い、再発予防につとめる必要があります。

私は2000年ごろ前任の病院にMRIが導入されたとき、いち早く「脳ドック」を始め、脳卒中の予防につとめました。

また、各地公民館において脳卒中の予防について講演をさせて頂いています。これからもこの問題解決に向けて努力して行きたいと思います。

つうしょテラス

一畑薬師へ行きました。

天候にも恵まれ、太陽でキラキラ輝く宍道湖を眺めながらのドライブは、とても会話がはずんでいました。



お買い物へ行きました。

お買い物の後の休憩は、コーヒーやソフトクリームを食べてもらい、くつろいだ時間を過ごしていただきました。



古いの身も気をひきしめて元気よく
デイサービスの心忘れず

S・I

短歌

平成27年永年勤続表彰対象者

20年

野田以登子 診療部
藤原保子 看護部
戸田美加 看護部

15年

青山恵子 看護部
舟木厚子 看護部
仁宮優子 看護部
江角敦子 事務部
高井美佳 事務部

10年

松尾みちよ 看護部
戸田博敏 診療部
小川徹子 在宅サービス部
糸川佳子 看護部

5年

堀江貴文 リハビリテーション部
前田拓郎 リハビリテーション部
森山彩夏 リハビリテーション部
曾田良平 リハビリテーション部
内藤美樹 リハビリテーション部

5年

青山善一 在宅サービス部
武藤貴広 薬局
峠田博子 診療部

石川美由紀 看護部
福田容子 リハビリテーション部



パパママだ~れ? ②

答えはP8▶

①



こども
心音ちゃん
(1才)



みどり
湊都くん
(2才)

お知らせコーナー

人事のお知らせ

【新入職員紹介】

安達亜希子
(医療相談部)



- 趣味 旅行、読書
- 好きなこと 美味しいものを食べる、動物
- 一言あいさつ 11月より勤務させていただいております。新しい環境の中、日々学ぶことが多いです。ご迷惑をおかけしますが、役に立てるようがんばりたいと思います。よろしくお願いします。

山根 千文
(4F)



- 趣味 ケイタイゲーム、人のブログを見るなど
- 好きなこと 断捨離やミニマリスト関連の本を読む
- 一言あいさつ まだ慣れないでのご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願ひします。

佐藤 嘉一
(看護部介護福祉士)



- 趣味 料理、プラモデルやラジコンの作成
- 好きなこと ドライブ
- 一言あいさつ 12月より勤務させていただいている。慣れるまで時間がかかり、ご迷惑をおかけしますが、日々精進していきたいと思います。よろしくお願ひ致します。

頬田はるか
(リハビリテーション部)



- 趣味 テニス
- 好きなこと 飲みに行くこと
- 一言あいさつ 1月より歯科衛生士として勤務させていただきました。慣れるまで時間がかかると思ういますが、よろしくお願ひ致します。

○組織変更 新設 事務部電子カルテシステム対策室

○昇進 事務部電子カルテシステム対策室室長兼総務課勤務
坂根 伸彦 (事務部総務課課長代理)

○退職 新川 智美 (看護部)
中村みどり (リハビリテーション部口腔ケア科)
安達 富江 (在宅サービス部通所介護)

パパママだれ?



診療部
大塚 香さん

リハ部
前田 拓郎さん
前田 晃子さん

公仁会事業報告 9・10・11月

□鹿島病院

①外来部門

(診療日数62日)	1日平均入数
延 外 来 患 者 数	1,245人

②病棟部門 ②-1 特殊疾患病棟(2F)

(診療日数91日)	1日平均入数
延 入 院 患 者 数	5,331人
レスピローティア装置患者数	2,421人
リハビリ実施数	2,220単位

②-2 回復期リハビリテーション病棟(3F)

(診療日数91日)	1日平均入数
延 入 院 患 者 数	4,420人
脳血管疾患リハビリ	16,746単位
運動器リハビリ	11,377単位
呼吸器リハビリ	685単位

②-3 医療養生病棟(4F)

(診療日数64日)	1日平均入数
脳血管疾患リハビリ	1,925単位
運動器リハビリ	917単位
呼吸器リハビリ	939単位
がん患者リハビリ	52単位

②-4 短期入所療養介護

ショートステイ延利用者数	0.0人/日

□在宅サービス部

①通所リハビリ "やまゆり"

(稼働日数79日)	1日平均利用者数
通所リハビリ延利用户数	2,496人
短期集中リハビリ実施数	192単位

②鹿島病院デイサービスセンター

(稼働日数79日)	1日平均利用者数
通所介護延利用者数	1,644人

④訪問看護"いつくしみ"

(稼働日数64日)	1日平均利用者数
訪問看護延利用者数(医師)	459人
訪問看護延利用者数(看護師)	621人
訪問看護延利用者数(看護師)	190人

⑤鹿島病院

やまゆり居宅介護支援事業所

(稼働日数64日)	月平均算定期数
在宅ケアプラン策定期数	409人
延べ介護予防ケアプラン数	64人

職員数

職種	職員数(名)
医 師	6人
薬 剤 師	1人
P T	20人
O T	19人
S T	5人
看護師(准看護師)	78人
臨床検査技師	2人
診療放射線技師	1人
社会福祉士	5人
介護支援専門員	6人
介護福祉士(介護職員)	70人
歯科衛生士	2人
營業実業士	4人
調 理 員	11人
事 務 員	17人
合 計	247人

2011.1現在

医療法人財団公仁会
基本理念

私たちには、仁愛の心をもって「医療と介護サービス」を提供し、地域に貢献します。

医療法人財団公仁会
基本方針

- 鹿島病院を中心とした地域連携して、良質な慢性期医療を確立します。
- 患者様・利用者様の人権を尊重し、思いやりといつしみの心で接します。
- 技術や知識向上のため、たゆまぬ努力を行ないます。

医療法人財団公仁会
行動指針

- Safety** …安全を最優先します。
- Speedy** …変化に能動的に挑戦します。
- Service** …おもてなしの精神で接します。

医療法人財団公仁会中期ビジョン2015

中期ビジョン2013

慢性期医療の確立

1. 病院機能

- (1)慢性期医療の推進
- (2)回復期リハビリテーションの推進と積極的拡充
- (3)特殊疾患、回復期、療養病棟の再編成の検討
- (4)医療療養病床平均在院日数135日を目指す
- (5)後発医薬品の使用促進

2. 在宅サービス機能

- (1)在宅サービスの質の向上
- (2)医療・介護関係機関との連携強化
- (3)在宅サービスの評価・検討・組織力強化

3. 医療安全対策の推進

- (1)感染防止対策の活性化
 - 専門的知識のレベルアップ
- (2)医療安全対策の活性化(医療安全、医薬品、医療機器)
 - 専門的知識のレベルアップ

4. 地域連携 及び 地域貢献

- (1)急性期及び介護保険施設の支援病院としての機能強化
- (2)地域の診療所との連携
- (3)患者退院後の地域連携の確立
- (4)予防医療や介護技術を地域へ普及

5. 高齢者や障害者を意識した施設・設備・環境の整備

6. 継続的な医療サービスの質の改善への取組み

- (1)機能評価の評価に基づく継続的改善活動
- (2)臨床指標(Clinical Indicator)の検討・活用
- (3)患者満足度向上の組織的取組み
- (4)診療録・看護記録等の質の向上

7. エコロジーへの取組み

8. 人材の育成

- (1)職員教育体系の構築
- (2)専門的知識を有するスタッフの育成
- (3)人事評価体系の構築

9. 電子カルテシステムの評価、改善

10. リスクの軽減とリスクへの備え

- (1)組織的にリスクの再評価、再検討
- (2)新型インフルエンザ対策
- (3)原子力災害への対応

患者様・利用者様の権利宣言

平成21年10月1日改正

1.個人の尊厳

患者様・利用者様は、ひとりの人間として、その人格・価値観などを尊重されます。患者様・利用者様ご自身が意思表示や意思決定できない場合は、ご本人の尊厳を最優先にご家族と当財團のスタッフで話し合い決定していきます。

2.平等で最善の医療と介護サービスを受ける権利

患者様・利用者様は、平等で安全に配慮された最善の医療・介護サービスを受ける権利があります。

3.インフォームド・コンセントと自己決定権

患者様・利用者様は、医療と介護サービスに関することについて、わかりやすい言葉や方法で説明を受け、その内容を十分に理解した上で選択・同意し、適切な医療・介護サービスを受ける権利があります。

4.情報に関する権利

患者様・利用者様は、当財團で行われたご自身の医療・介護サービスに関する情報の提供を受ける権利があります。

5.プライバシー及び個人情報の保護

患者様・利用者様は、私的な生活を可能な限り他人に侵されない権利があります。医療・介護サービスの過程で得られた個人情報は、個人の秘密として厳守され、患者様・利用者様の承諾なしには開示されません。

鹿島病院臨床倫理の方針

平成22年1月1日制定
(平成22年1月6日:部長会承認)

- 患者様の人権を尊重するとともに、患者様と医療従事者が協力して公正かつ公平な医療を提供します。
- 患者様ご自身が意思決定できない場合は、ご家族と十分に話し合い治療方針等を決定します。
- 終末期治療方針は、医学的に妥当で適切な医療を患者様・ご家族の同意の上、多職種によるケアチームで決定します。
- 患者様の信条や価値観を尊重した医療を提供します。
- 臨床研究は、倫理的審査を行った上で患者様・ご家族の同意に基づき実施します。

ときめき広場



健康フェスティバル ~通所リハビリ~

通所リハビリ所長 古瀬奈保子

10月18日に地域交流の一環として、鹿島病院通所リハビリ主催で健康フェスティバルを開催しました。

健康フェスティバル

当日は小学生のお子さんから高齢の方まで33名の参加者がありました。午前中だけでしたが、幅広い年代の方に参加していただきました。本当にありがとうございました。

内容はリハビリスタッフによる介護予防のための身体評価や体操。介護職員による体操（セラバンドやボール使用）。栄養課と業者による健康指導、新商品等の展示や試食。福祉用具や介護用品紹介、足のサイズ測定などでした。



体操や身体評価は自分の体力や老化現象を知ることができ、運動不足解消にもなり好評でした。体操は自宅でもできる内容でした。また、足のサイズ測定は既製品を購入するのに困った経験がおありの方にはとても良かったようです。また利用者様のご家族も多かったので、お茶を飲みながら交流もでき、日頃の介護のお話ができ良かったようです。

今回開催してみて、健康への関心が非常に高く、元気で歳を取りたいと思っている方が多いことをあらためて感じました。高齢になっても運動したり、健康教室に通うのが一般的な時代です。いつまでも元気で過ごすためには日頃からの予防が大切です。今後もこのような健康教室を定期的に開催していくつもりです。また、たとえ病気になっても、通所でリハビリに通うことで在宅生活が安心して続けられるように支援していくつもりです。



鹿島病院通所リハビリが、地域でなくてはならない事業所となるよう、今後とも努力してまいります。今後ともご支援よろしくお願いいたします。

編集後記

一年を締めくくるもちつきがあございました。新しい年を迎える気持ちももち上げて今年も頑張りましょう！



■編集・発行・責任者：福利厚生・広報委員会委員長
医療法人財団公仁会 〒690-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1
e-mail ksm@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/
鹿島病院 TEL(0852)82-2627㈹ FAX(0852)82-9221
訪問看護ステーション(いつくしみ) TEL・FAX(0852)82-2640
やまゆり居宅介護支援事業所 TEL・FAX(0852)82-2645
通所リハビリテーション(やまゆり) TEL・FAX(0852)82-2637
鹿島病院ティサービスセンター TEL(0852)82-2665㈹ FAX(0852)82-9221
■印刷元 千鳥印刷株式会社